

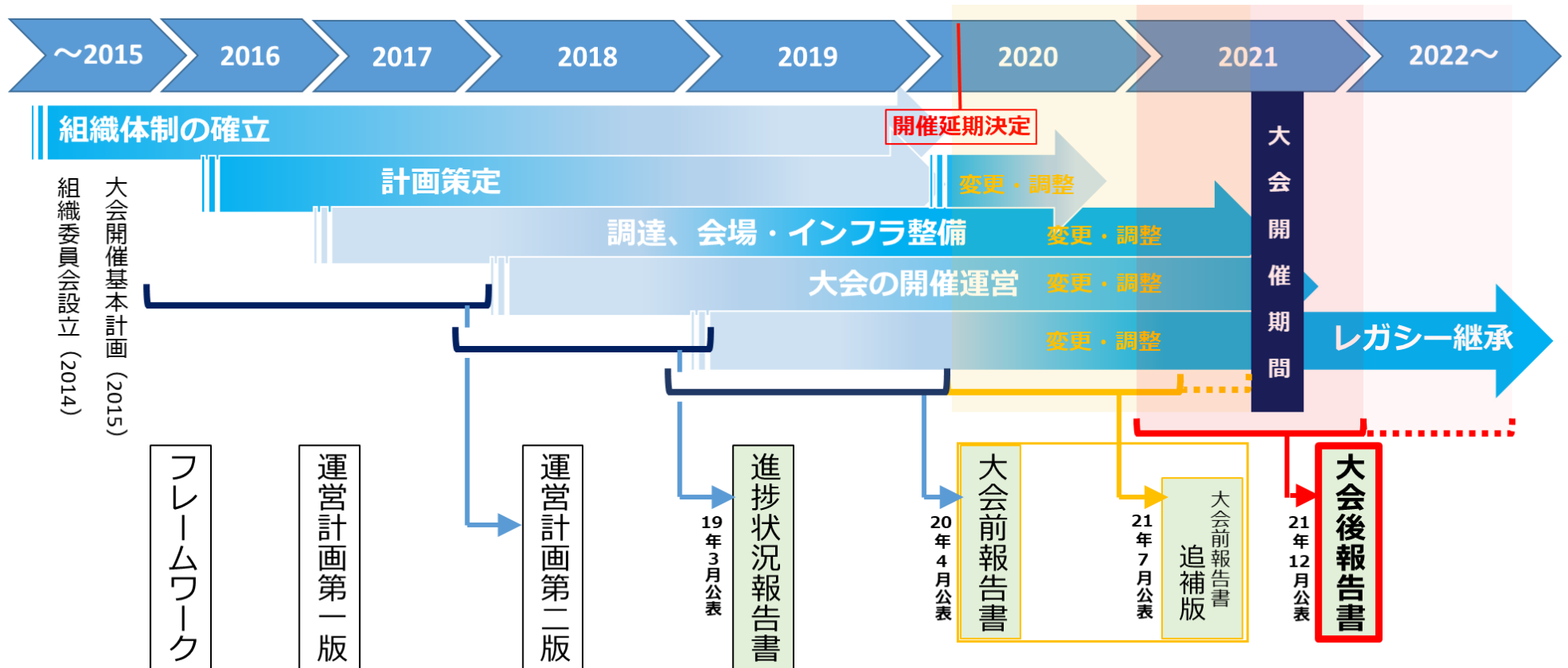


持続可能性大会後報告書について

2021年12月22日

東京2020大会の持続可能性報告の体系

- 大会の準備・開催のフェーズの進行に沿いながら、運営計画及び3つの報告書により大会の持続可能性の全体像を提示
- **持続可能性大会後報告書は、大会後に明確になる取組結果や大会から得た学び・気づき等を報告し、大会の持続可能性を総括**



東京2020大会の持続可能性の概要

持続可能な社会の実現に向け、多様な主体と連携し、課題解決のモデルとなる取組を推進

東京 2020 大会の持続可能性コンセプト

Be better, together

より良い未来へ、ともに進もう。

<5つの主要テーマと大目標>



気候変動

脱炭素社会の実現に向けて



資源管理

資源を一切ムダにしない



大気・水・緑・生物多様性等

自然共生都市の実現



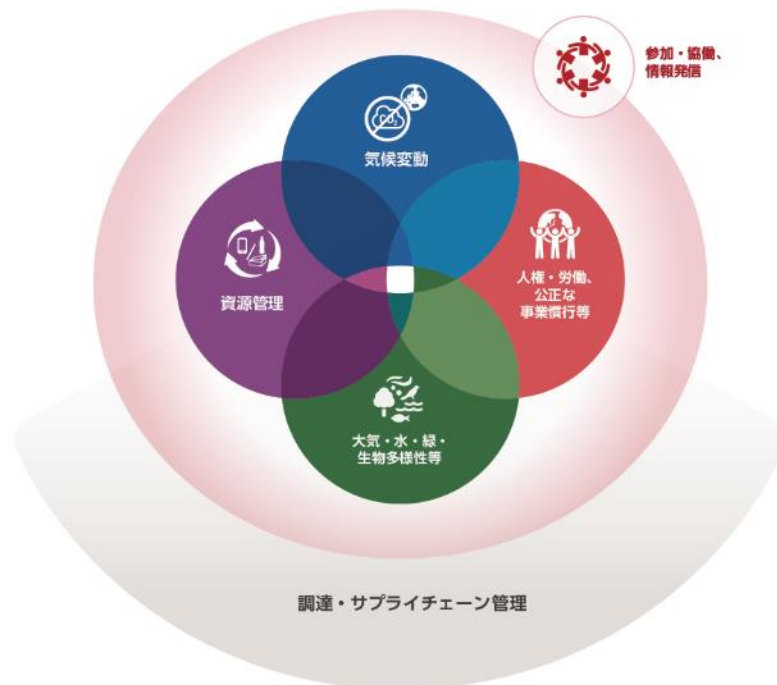
人権・労働、公正な事業慣行等

多様性の祝祭

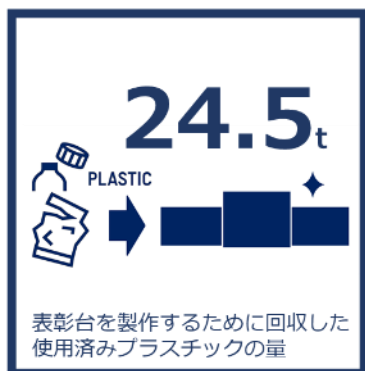
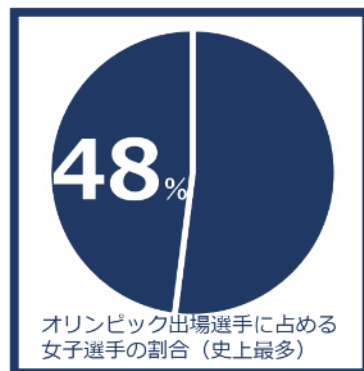
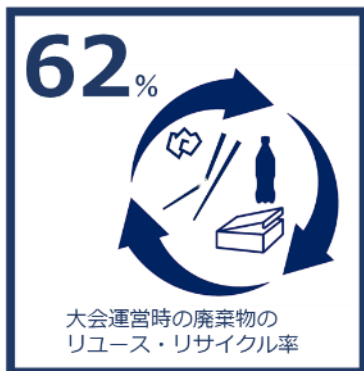
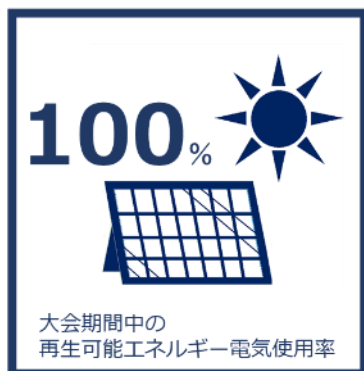


参加・協働、情報発信

パートナーシップによる大会づくり



数字で見る東京2020大会の持続可能性



東京2020大会の主な取組結果

・カーボンマイナス大会を実現

- ▶ バイオマスや太陽光による電力の調達や、東京都及び横浜市の協力によるグリーン電力証書により、**大会期間中の再生可能エネルギー電力100%を実現**。福島県内の太陽光発電施設で発電された電力も使用し、復興を後押し
- ▶ **燃料電池自動車475台の導入**や、**聖火台や聖火リレートーチの一部の燃料に水素を使用**。東京都の取組として、選手村内の宿泊施設の一部や選手の休憩施設の電気を、純水素型燃料電池により供給。オリンピックスタジアムの聖火台や選手村においては、福島県で製造された再エネ由来水素を使用
- ▶ **全競技会場の約6割について既存会場を活用**するとともに、**都市鉱山をはじめとする環境配慮物品の調達**や、省エネ対策、低公害・低燃費車両の利用等のCO₂回避・削減対策を実施
- ▶ **東京都・埼玉県を通じた217事業者の参加**により、大会に関連したCO₂排出量（196万t-CO₂）を242万t-CO₂超過する438万t-CO₂のクレジットによるカーボンオフセットを行い、**カーボンマイナス大会を実現**

・調達物品、運営時廃棄物の3Rの推進

- ▶ レンタル・リースや関係機関との連携による後利用の推進により、**調達物品の99%をリユース・リサイクル**
- ▶ コロナ禍において多くの会場で無観客となり、廃棄物の組成が変化する中、分別を徹底し、ペットボトル、プラスチック、紙などの素材リサイクルを進め、**大会運営時に排出された廃棄物の62%をリサイクル**
- ▶ 大会中に生じた食品ロスや医療用消耗品の廃棄等の課題については、大会期間中に改善の取組を実施

・参加型プロジェクトを通じた市民参加の創出

- ▶ 市民参加により都市鉱山から製作されたメダル、使用済みプラスチックから製作された表彰台で選手を表彰
- ▶ 各自治体から借り受け、大会後に活用される木材で建てられた選手村のビレッジプラザで選手の生活を支援

東京2020大会の主な取組結果

・競技会場における自然環境等への配慮

- ▶ 雨水等の循環利用や在来種による植樹など、新規恒久会場の整備において水循環や緑化を推進
- ▶ オリンピックスタジアムの大屋根トラスや軒庇、有明体操競技場の梁や内外装など、会場建設において多くの木材を使用

・ジェンダー平等／多様性と調和の推進

- ▶ 研修等を通じてダイバーシティ&インクルージョンの浸透を図るとともに、アクセシビリティの確保や、選手村総合診療所「女性アスリート科」の設置、宗教や多様な食習慣に配慮した食事の提供など、「**多様性と調和**」を大会運営に反映
- ▶ **女性理事割合42%**を達成するとともに、**ジェンダー平等推進チーム**を立ち上げ、関係者や市民に誰もが生きやすい社会に向けた行動を呼びかける「**東京2020D&Iアクション**」など、更なる取組を推進

・持続可能性に配慮した調達

- ▶ 大会のために調達するモノやサービスのサプライチェーンにおける環境保全や人権の尊重、適切な働き方等を推進するため、「**持続可能性に配慮した調達コード**」を策定・運用。木材や食材等は個別の調達基準も策定
- ▶ **調達コードの不遵守に関する通報受付窓口を設置**。助言委員会の助言も得ながら通報に対応し、対応の概要はウェブサイトで公表

・ISO20121の第三者認証に基づく大会運営

- ▶ 大会の開催期間も含め、イベントの持続可能性をサポートするためのマネジメントシステムである**ISO20121**に基づく大会運営を実施

持続可能性について大会で成し得たことや、直面した課題、得られた学びといった大会の無形の価値が、レガシーとして多くの人々に伝わることを期待